

「群馬県支部会報」

発行
令和元年8月7日
公益社団法人 日本技術士会
群馬支部 広報委員会

ごあいさつ#

支部長メッセージ

会報第13号の発行にあたり

公益社団法人 日本技術士会
群馬県支部 支部長
眞下 寛治（機械部門）



会報第13号の発行にあたり、ご挨拶申し上げます。

米中貿易摩擦による世界経済への懸念が経済の不透明感を増強しています。日銀が7月1日に発表した短観では、大企業・製造業の景況感を示す業況判断指数(DI)は3月の前回調査から悪化しており、大企業・製造業がプラス7と前回調査から5ポイント悪化しています。なお、非製造業はプラス23と2ポイント改善しています。先行きは製造業がプラス7と横ばい、非製造業はプラス17と悪化を見込んでいます。

韓国への半導体材料3品目の輸出管理強化により日本の技術の高さが注目されています。イノベーションについて信頼性のある知見と分析を提供する世界的リーダーであるクラリベイト・アナリティクスが今年1月に発表した、世界で最も革新的な企業・研究機関100社を選出する「Derwent Top 100 グローバル・イノベーター 2018-19」では、39社の日本企業が受賞し、昨年に引き続き世界最多です。米国からは33社が、ヨーロッパからは19社が選出されています。

このように日本企業は、過去の研究開発により、世界の技術革新を牽引しています。しかし、最近の特許出願件数の減少、開発人材の意識の変化など、先行きが心配されるところです。

日本技術士の最近の動きとして、「技術士制度改革について」最終報告(案)が今年5月8日に理事会に報告されました。①更新対象者は技術士登録者全員とすること、②更新期間は5年に1回とすること、③CPDは5年で100時間を必須とし、自己学習、eラーニング等でも取得可能とすること、④更新講習は半日研修とし、倫理、最近の技術士制度、法令、科学技術動向などとする、⑤未受講者は技術士(更新)の名称使用不可とすること、などが報告されています。

日本は資源がない国ですから、技術開発をしてゆかなければなりません。国も中小企業の支援に力を入れております。

技術士として益々活躍する場が増えていると思います。いっしょに頑張っていきましょう。今後の群馬県支部の活動に皆様方からのご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

第8回全体会合

- 日時:令和元年7月19日(金) 午後13:30~14:15
- 場所:群馬産業技術センター 第1研修室
- 次第: 1 支部長挨拶
2 議事
(1)平成30年度事業報告について
(2)平成30年度収支報告について
(3)令和元年度事業計画について
(4)令和元年度予算について

※議事内容は、特に異議なく報告されました。



『SDGs（持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals）』

1. 「持続可能な開発目標(SDGs)とバイオマス活用」

1. 地球・人類が抱える緊急課題
2. 新しい資本と経済とバイオマスの関係
3. バイオマスは化石資源と同じ
4. SDGs15とバイオマスの関係
5. 纏め、SDGsに貢献するバイオマス

講師 竹林征雄 様

NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク副理事長
[ご都合により、加藤様が代理]



2. 「ポートモレスビルにおける下水道事業の支援について」

1. 途上国の下水道事業支援と SDGs
2. バブアニューギニアの状況
3. ポートモレスビーの下水道事業
4. プロジェクトと SDGs
5. プロジェクトの内容
6. プロジェクト内容の紹介
7. 日本と SDGs について

講師 佐藤 孝史 様

(上下水道, 建設, 衛生工学 / 総合技術監理部門)



3. 「経営工学ビジョン 2050 のその後」(経営工学部門)

- ・「技術士2019.7(特別号)」に掲載された内容
- ・経営工学部門で2011年5月に発行した「経営工学ビジョン2050」の副題は、SDGsに向けた取り組みの実現への提言だったので、その後について考察したものである。

講師 加藤 洋 様

(機会, 経営工学 / 総合技術監理部門)
一社)群馬県技術士会 会長



編集後記

SDGsは関心が高い内容ですが、主に実務面において「具体的に何をやるのか？」という声をよく聞きます。

私には、当会の「CPD講演内容のHP視聴」が参考になりました。

説明では、海外を舞台に活動している企業は、資源や物品の調達の際に取引先が「子どもを働かせていないか？」を調査、確認するとのこと。

なるほど目標の1~4は、このような活動に展開されるのですね。

(広報委員長 小池)

